

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：34419

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13359

研究課題名（和文）植民地期インドの商家建築壁画にみる近代性と民族主義の形成過程

研究課題名（英文）Modernity and Nationalism in the Murals of Merchant Houses in Colonial India

研究代表者

豊山 亜希 (Toyoyama, Aki)

近畿大学・国際学部・准教授

研究者番号：40511671

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、イギリスの植民地支配下にあった20世紀前半のインドにおいて、イギリスとの商業関係を通じて社会的影響力を高めた商業カーストの邸宅建築を飾る装飾壁画の主題および表現様式の変化を分析することによって、植民地インドにおけるカースト・アイデンティティやナショナリズムの意識がどのように形成・展開したのかを明らかにした。特に、南インド出身でスリランカやシンガポールなどで成功をおさめた商業集団チェットィヤールが、出身村においても進出先においても、出身地の伝統建築と植民地経済での成功を示す装飾品を組み合わせた独自の折衷様式を発達させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究においては、チェットィヤールが進出した社会のうち、ミャンマーとスリランカにおいて彼らが造営したヒンドゥー教寺院を調査するとともに、現地社会で多数派を占める上座仏教徒によって寄進された仏教寺院建築の調査をあわせて行い、その様式的類似点・相違点を分析することで、ナショナリズムの意識がどのように異なっていたのかを明らかにした。とりわけスリランカでは、この違いがのちに深刻な社会対立を生み出す前提となったと考えられるため、視覚文化を通じた排他的な民族意識の醸成をどのように見定めることが可能であるか、研究成果を通して社会に訴えることができる。

研究成果の概要（英文）：The project analyzed architecture of the Chettiars, the Hindu migrant merchants from Tamil Nadu who became prominent in the colonial period. Their mansions in Tamil villages and Hindu temple buildings in the migrant regions reflect the changes of the Chettiar's caste identity and nationalistic perceptions in their mural paintings and other decorative elements.

研究分野：美術史

キーワード：チェットィヤール スリランカ ミャンマー タイル（マジョリカタイル） 日本

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

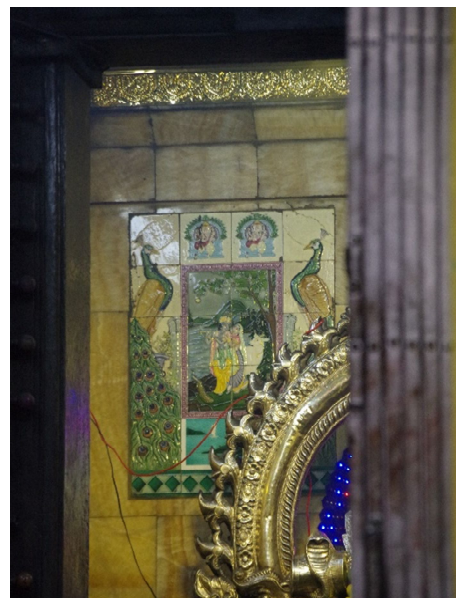
本研究を開始した段階で、植民地インドの商業集団が造営した邸宅建築に関する研究は、人類学と経済学の研究成果で一部紹介されるにすぎず、美術史的アプローチから邸宅建築それ自体の存在意義を正面から研究した成果は、ガイドブックのような刊行物を除けばほとんどなかった。一方で近年、「消費」をキーワードとして、植民地期における物質文化の消費動向や、その発展を促進するポスターや商品ラベルといったメディア、また消費財そのもののデザインやそれを用いた空間の装飾様式などを検討材料にして、インドの人々の植民地経験に対する意識変化をたどる必要性が様々な分野から提唱されるようになった。美術史においても、イギリスによって建てられた壮麗なコロニアル建築や、西洋絵画との関わりのなかから登場した国民的画家といった研究テーマだけでなく、これまで扱われてこなかった大量印刷のポスターや、陶器製のノベルティ人形といった、人々の消費と結びついた視覚文化も射程に入るようになった。こうした研究動向を踏まえて、本研究においては、イギリス統治期にイギリスとの密接な関係を構築することで経済的成功をおさめ、社会的地位を上昇させた移住商人チェッティヤールが、出身村に建てた邸宅建築と、進出先社会で建てた宗教建築が、どのような様式的変化をたどったのかを分析し、それがどのような社会変化を反映しているのかを明らかにできると考えた。

### 2. 研究の目的

研究代表者は、本研究課題の採択前に、平成 26～28 年度にかけて北インド出身の商業集団マールワリーと、南インド出身の商業集団マールワリーについて、それぞれがイギリス統治期に経済的成功を背景に造営した邸宅建築に関する基礎的研究を実施した(科学研究費 若手研究 B「植民地インドにおける商業カーストの邸宅建築に関する基礎的研究」研究代表者・豊山亜希、課題番号 26770054)。この研究の成果として、1920 年代後半から 30 年代にかけて、マールワリー、チェッティヤール双方の邸宅建築において、日本製の多彩レリーフタイル(通称マジョリカタイル)がさかんに用いられたことが明らかとなった。それを踏まえて、本研究ではチェッティヤールの出身村 70 余が分布するインド南部のタミル・ナードゥ州と、その移住先となったスリランカ、ミャンマー、マレーシア、シンガポールを主な調査先に選定し、加えて同時期に現在のパキスタンで活躍し日本の神戸にも拠点を構えるインド系商人シンドワーカーも比較検討するため、その活動拠点となったカラチにおいても実地調査を行う計画を策定した。さらに、両大戦間期の日本からインドへ輸出されたとみられる装飾タイルについて、日本国内で製造元の社史や関連業界の雑誌を調査するとともに、博物館において現存例の熟覧調査を行い、製造と流通の実態解明を試みることも調査計画に含めた。研究全体の目的は、商家建築壁画の様式的変遷を通して、それぞれが辿った近代化の歩みと民族主義の醸成過程を比較し、植民地インド社会全体のアイデンティティ変容が、現代インド・南アジアの多元性と統一性をどのように準備したのかを明らかにすることと設定した。

### 3. 研究の方法

平成 29 年度は、イギリス統治期のチェッティヤールの活動を具体的に把握するため、9 月にイギリスの大英図書館において、植民地インドの貿易統計、商業名鑑、国勢調査を中心とした資料調査を実施した。それを踏まえて、チェッティヤールの邸宅建築における大きな特徴のひとつである、ビルマ産木材の取引の重要性が明らかになったことから、2018 年 3 月にミャンマーにおいてフィールドワークを実施した。ミャンマーの最大都市ヤンゴン、商業港モラミヤイン、旧王都マンダレーの三カ所において、チェッティヤールを含むインド系商人が建てたヒンドゥー教建築を調査するとともに、ビルマ人仏教徒によって寄進された同時代の仏教寺院もあわせて調査した。その結果、チェッティヤールの建築様式を構成する折衷性が、移住先であるミャンマーの建築と少なからず親和性をもっていることがわかった。ミャンマーにおいても、イギリスとの取引で成功した現地商人による宗教建築の寄進が積極的に展開され、日本製のマジョリカタイルも好んで用いられていたことがわかった。ただし、ミャンマーではイギリス統治前からさかんだったガラスモザイクと組み合わせる植物文タイルが主に用いられるのに対して、チェッティヤールのヒンドゥー教寺院では、インド本国から持ち込まれたとみられるヒンドゥー教主題のタイルパネルが用いられていた。これらは、ラングーンを積み下ろし港として日本から直接輸入されたものではなく、寺院建設にあたってインドからもたらされたと考えられるほうが自然であり、このことは、チェ



カーリー寺院(ヤンゴン)

チェッティヤールが建てたヒンドゥー教寺院で、本堂奥壁にヒンドゥー教の神クリシュナと恋人ラーダーを表すタイルパネルが張られている。

ツェッティヤールがビルマ商人とは異なったネットワークを持っていたことを示唆するものといえる。

平成30年度は、ツェッティヤールが進出したなかでも、現地社会との対立が激しかったとされるスリランカにおいて、8月から9月にかけてフィールドワークを実施した。スリランカでは、最大都市コロンボに複数のツェッティヤール寺院が運営・維持されており、いずれも20世紀前半に日本製マジョリカタイルで装飾したことが現存状況から把握された。一方で、スリランカ社会の多数派を占めるシンハラ人仏教徒によってイギリス統治期に造営された仏教寺院・僧院においても、日本製マジョリカタイルが大規模に普及していたことがわかった。貿易統計では、市場規模の小さいスリランカにはそれほどタイルの需要がなかったように読み取られるが、人口規模に比べてみると、インドよりも高い普及率であると思われた。これは、マレーシアやシンガポールにも共通して言えることであろう。タイルの使用法は、インドや宗主国イギリスのように壁に用いるのではなく、床に敷き詰めるのが特長である。タイルを製造していた戦前期日本のタイルメーカーは、壁タイルとして凹凸のあるレリーフ装飾をほどこしたタイルをデザインしていたということであり、日本国内のタイルメーカー関係者へのインタビューでは、こうした使用法は想定していなかったとのことである。凹凸がある壁タイルを床に敷き詰めた理由として考えられるのは、シンハラ人仏教徒によるイギリスへの抵抗運動として、仏教寺院内への土足立ち入り禁止運動というものが展開されたことが挙げられる。美しいタイル

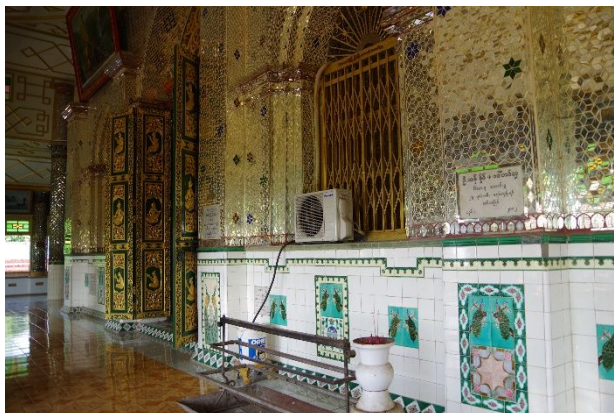
を敷き詰めることで、シンハラ人にとっての神聖な空間を汚されないようにとの考えがあったとみられる。また、ブッダが横たわった姿で表されるいわゆる涅槃像が主流のスリランカ仏教において、ブッダの横たわる床を美しく飾るという目的もあったと考えられる。こうした建築様式の特長の違いは、シンハラ人仏教徒とインド出身のヒンドゥー教徒であるツェッティヤールの違いを際立たせており、その後の深刻な社会の分断を予兆するものとも考えられる。

また平成30年度は、愛知県常滑市にあるINAX世界のタイル博物館において、日本製マジョリカタイルの歴史を紹介した企画展「和製マジョリカタイル 憧れの連鎖」に関わり、図録への論考執筆、関連した雑誌・新聞記事への情報掲載、所蔵品の展示貸出によって、研究成果の社会的還元を行うことができた。

令和元年度は、前年度までの2年度間の研究成果を発表することに主眼を置き、国内で2件、外国で1件の研究発表を実施した。このうち、シンガポールで発表した内容については、令和2年7月に国際学術雑誌（査読付）に掲載される予定である。

#### 4. 研究成果

本研究の主な成果は、研究対象である南インド出身商人のツェッティヤールの移住先社会における立ち位置が、地域によってかなりの違いがあり、それが移住先社会で造営したヒンドゥー寺院の建築様式にも反映されていることがわかった点である。とりわけ、スリランカにおける多数派シンハラ人仏教徒とタミル人ヒンドゥー教徒とが、イギリス統治下の消費行動や視覚表象を通して対立を深めていったことがわかったのは、統計データや公文書だけではわからなかったフィールドワークの成果であり、また先行研究によっても指摘されてこなかった新たな知見である。この発見をさらに掘り下げることで、独立後のスリランカで発生するに至った内戦の前提条件が、植民地期にいかんして人々の日常的な視覚世界を通して準備されたのかを明らかにすることができ、その社会的意義はきわめて大きいといえる。今後の研究課題として、植民地期のスリランカにおけるシンハラ人仏教徒とタミル人ヒンドゥー教徒の自己表象のあり方をさらに分析していきたい。



マハムニ仏塔（モラミヤイン）

ビルマ人仏教徒が寄進した寺院で、ガラスモザイクとタイルが用いられている。



ジェータヴァナ仏塔（スリランカ、アヌラダプラ）

スリランカ仏教の聖地のひとつで、仏堂の床に日本製マジョリカタイルが敷き詰められている。

本研究を遂行した3年間の間に、予定どおりに研究計画が進まなかった点もある。平成30年度に予定していたパキスタンでのフィールドワークが、インドとパキスタンの関係悪化に伴う航空路線の運休によって実施できなかったことである。そのため、文献調査では日本製タイルの存在が示唆されたパキスタン国内の状況を把握できておらず、チェットイヤールと比較検討する商業集団としてのシンドワーキーについて、今後状況が改善したら調査を実施したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Aki Toyoyama	4. 巻 9
2. 論文標題 Aesthetics, Sanitation, and Nationalism: Japanese Majolica Tiles in Late Colonial India	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of South Asian Studies	6. 最初と最後の頁 37-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 豊山亜希
2. 発表標題 ラヴィ・ヴァルマー再考 - インド近代美術史の再構築へ向けて
3. 学会等名 第52回南アジア研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 豊山亜希
2. 発表標題 可視化されるナショナリズム：英領セイロンにおける仏教寺院建築の変容
3. 学会等名 日本南アジア学会第32回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aki Toyoyama
2. 発表標題 Visualising Religious Nationalisms: Architectural Idioms and Intra-regional Trade Networks in Colonial South and Southeast Asia
3. 学会等名 The 3rd Asian Consortium of South Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 豊山亜希
2. 発表標題 植民地インドの博覧会における収集と展示のポリティクス
3. 学会等名 2018年度MINDAS布班第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Aki Toyoyama
2. 発表標題 The Tiling of the Colonial Build Environment across the Indian Ocean
3. 学会等名 AAS-in-Asia 2018 New Delhi (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 豊山亜希
2. 発表標題 南アジア世界のヴィジュアルリティ
3. 学会等名 NIHUプロジェクト「南アジア地域研究」2018年度南アジアセミナー(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 豊山亜希
2. 発表標題 国際学会へ行こう
3. 学会等名 Historians' Workshop (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Aki Toyoyama
2. 発表標題 Majolica Tiles from Japan: India Modern and Nationalism in Colonial Architecture
3. 学会等名 Political Economy Tokyo Seminar (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Aki Toyoyama
2. 発表標題 Majolica Fever from Japan: The National Landscape in Colonial India
3. 学会等名 Tokyo Humanities Cafe (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Aki Toyoyama
2. 発表標題 Majolica Fever in India: Sanitary Aestheticism in the Age of Colonial Empires
3. 学会等名 Association for Asian Studies
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 INAXライブミュージアム企画委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 LIXIL出版	5. 総ページ数 64
3. 書名 和製マジョリカタイル - 憧れの連鎖	

1. 著者名 Shinobu Majima, Satomi Ohashi, Hiroki Shin, and Yusuke Tanaka	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Kato Seishodo	5. 総ページ数 181
3. 書名 History of Consumer Culture: Objects, Desire and Sociability	

1. 著者名 インド文化事典編集委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 771
3. 書名 インド文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ニュース一覧(研究)  <a href="http://int-studies.kindai.ac.jp/">http://int-studies.kindai.ac.jp/</a>          教員紹介  <a href="http://int-studies.kindai.ac.jp/curriculum/teacher/aki-toyoyama-c74.html">http://int-studies.kindai.ac.jp/curriculum/teacher/aki-toyoyama-c74.html</a>          近大コメンテーターガイド  <a href="http://www.kindai.ac.jp/meikan/1463-toyoyama-aki.html">http://www.kindai.ac.jp/meikan/1463-toyoyama-aki.html</a></p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考